

「来年度（2024年度）の企業動向・経済展望」に関するアンケート

実施期間：2024年3月15日～2024年3月29日

回答数：210件 / 1,087件（回答率 19.3%）

[企業動向]

- 「販売価格」「仕入価格」とともに、上昇レベルは緩やかになる見通し。一方「人員確保の状況」は、不足感が高まる見通し（Q1、Q2、Q4）

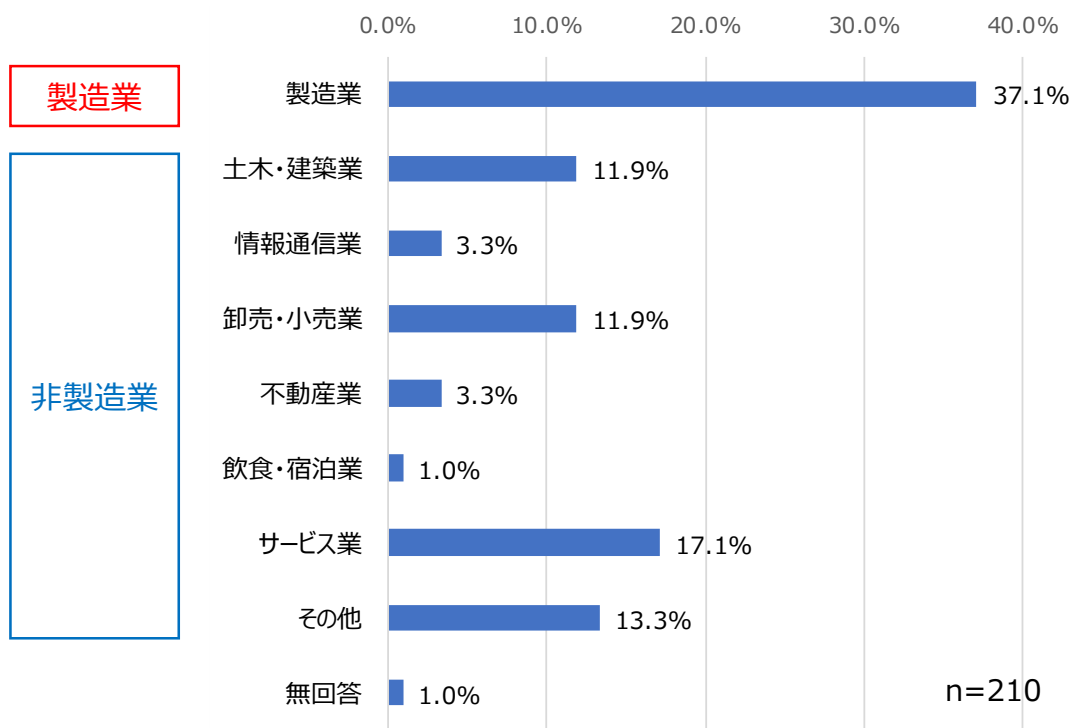
[賃上動向]

- 全体の約9割が賃上げを検討している。賃上げの水準は「3～5%」が最も多い結果となった（Q7）

[経済見通し]

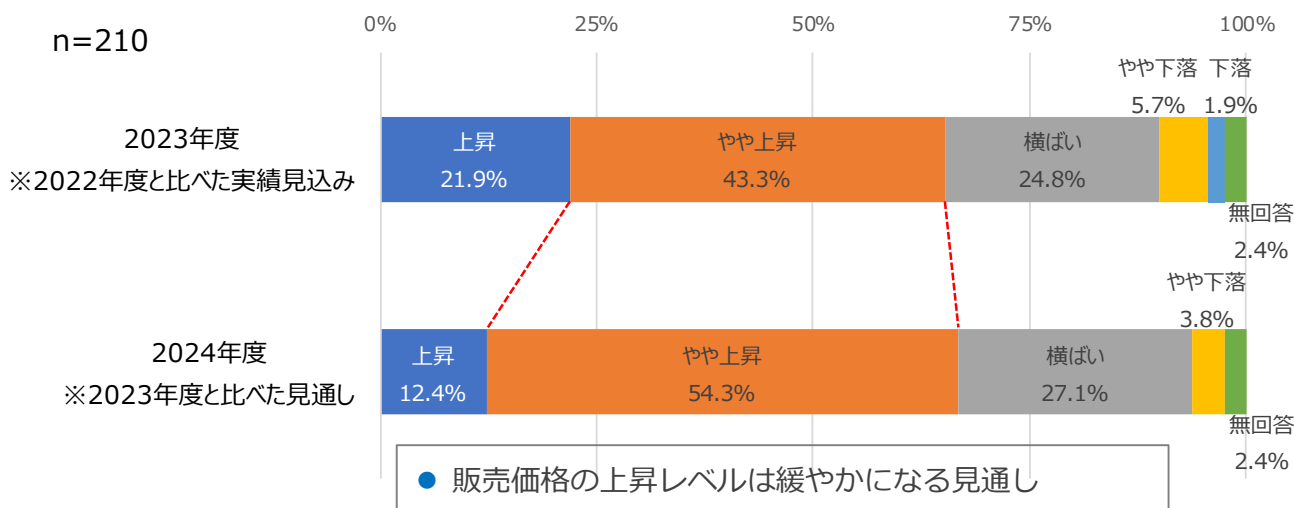
- 日本経済は「強気（30%）」が「弱気（11%）」を上回りポジティブであるが、世界経済は「強気（15.2%）」と「弱気（15.7%）」が拮抗し、方向感を欠いている（Q11）

Q 業種



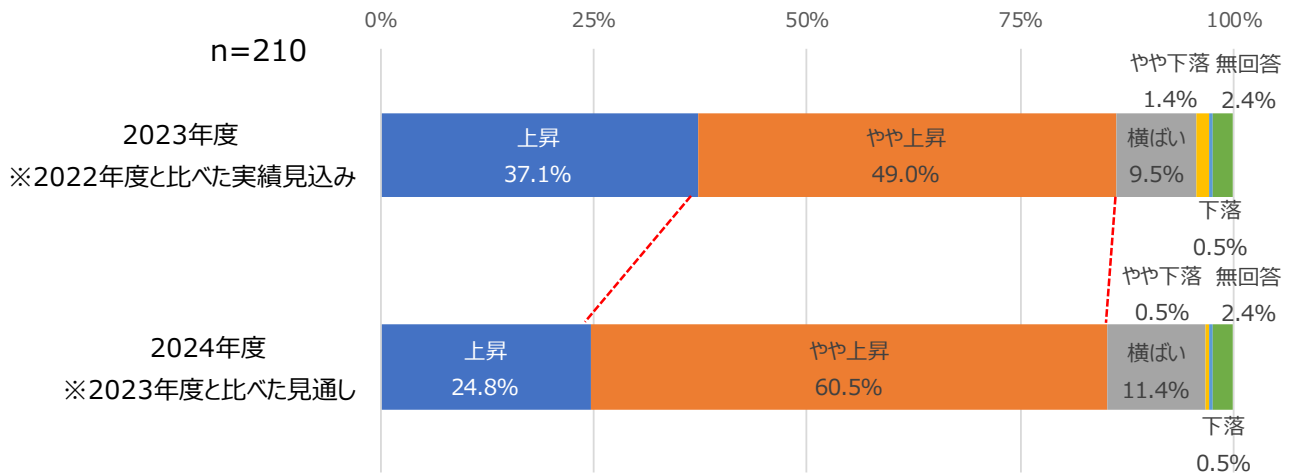
Q1. 貴社の今期・来期の「販売価格」について教えてください。

(単一回答)



Q2. 貴社の今期・来期の「仕入価格」について教えてください。

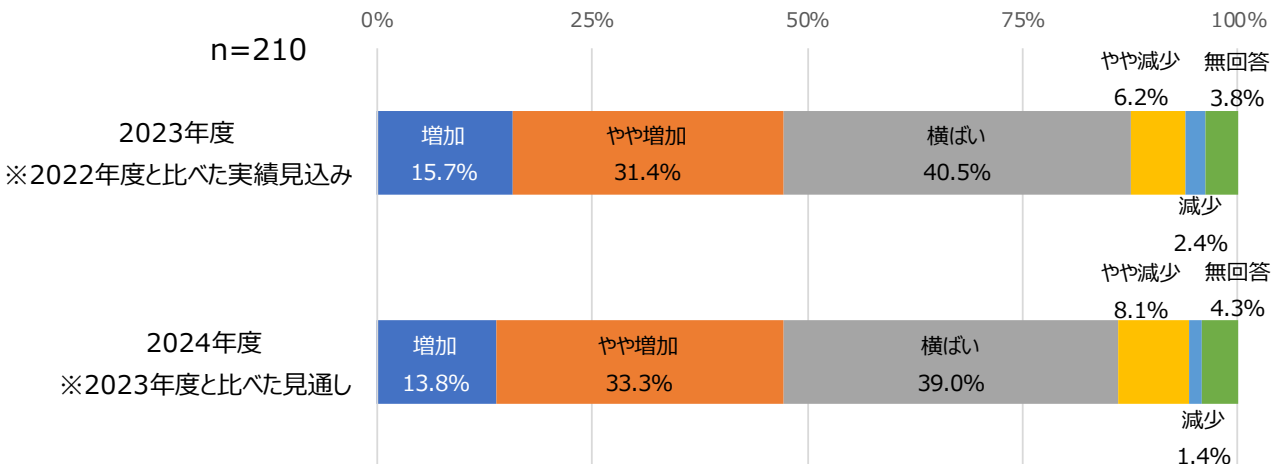
(単一回答)



● 仕入価格の上昇レベルは緩やかになる見通し

Q3. 貴社の今期・来期の「設備投資計画」について教えてください。

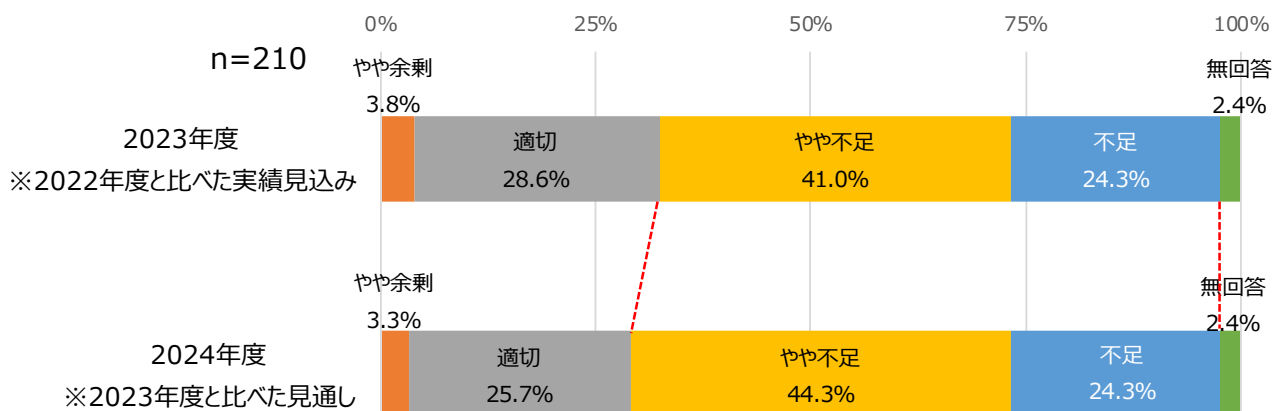
(単一回答)



● 設備投資は横ばい～やや弱含み

Q4. 貴社の今期・来期の「人員確保の状況」について教えてください。

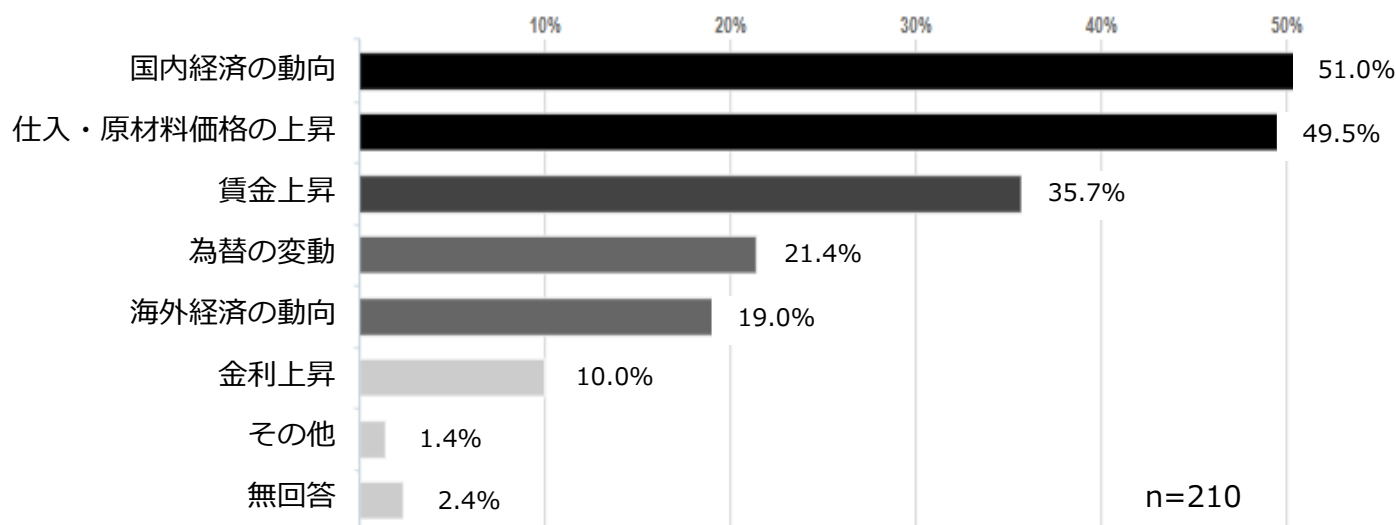
(単一回答)



● 人員の不足感が高まる見通し

Q5. 貴社の業績に与える影響が大きいものについて、教えてください。

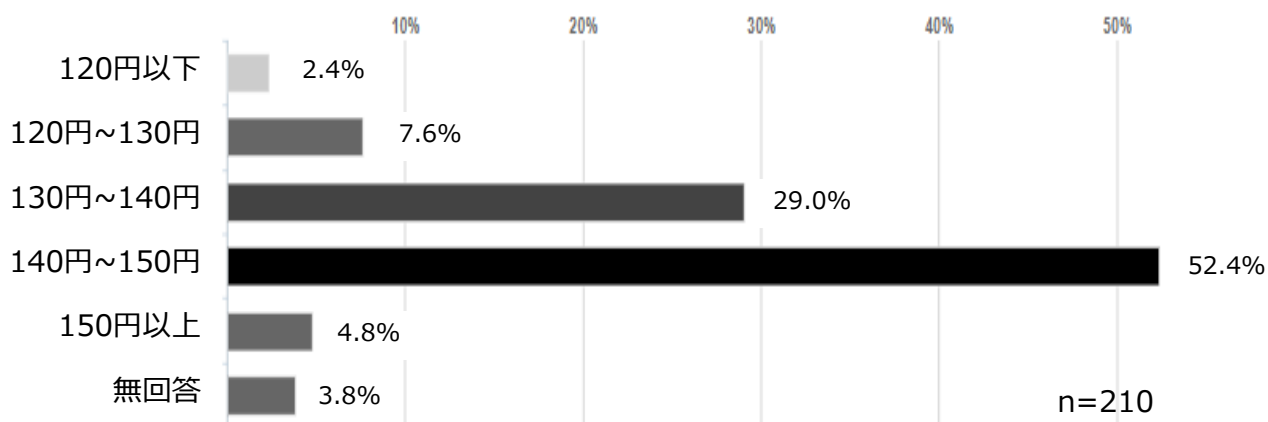
(複数回答)



- 需要を占う「国内経済の動向（51.0%）」に最も関心が集まる結果となった。
- 次いで、「仕入・原材料価格の上昇（49.5%）」「賃金上昇（35.7%）」など、供給コストに関わる要素が注目されている。

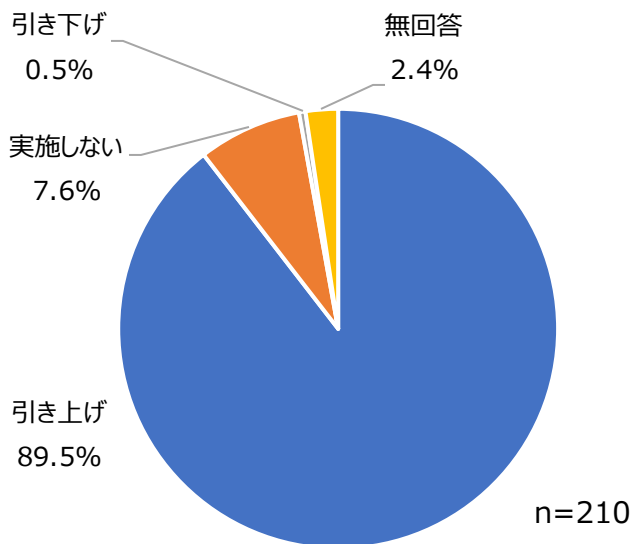
Q6. 貴社が想定する為替レートについて、教えてください。

(単一回答)



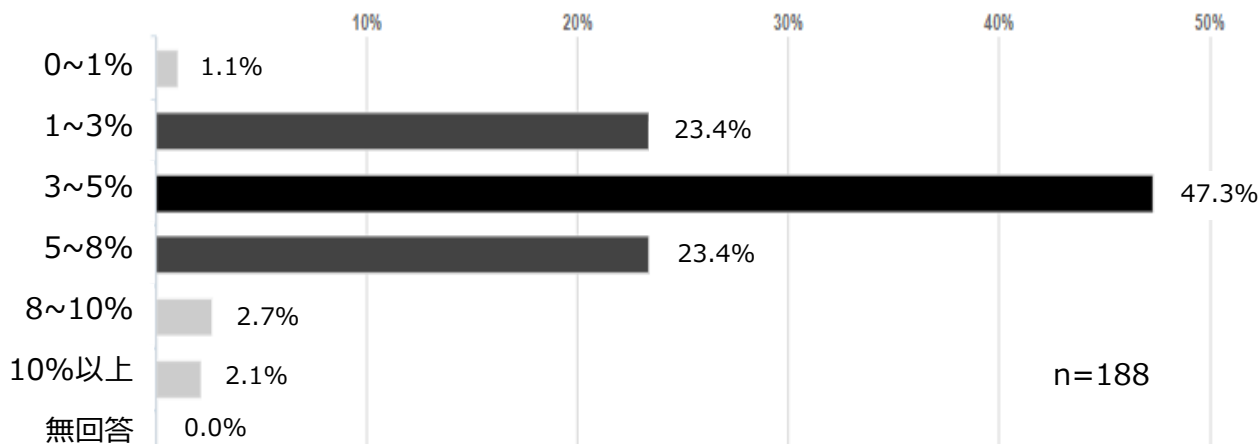
- 「140円~150円（52.4%）」の値幅を想定する回答が最も多い結果となった。
- 次いで「130円~140円（29.0%）」「120円~130円（7.6%）」の回答が多いことから、足元の為替レートの水準は、円安に振れていると認識する声が多いことが伺える。

Q7.2024年度の賃金改定（賞与等を含む）の検討状況について教えてください。（単一回答）



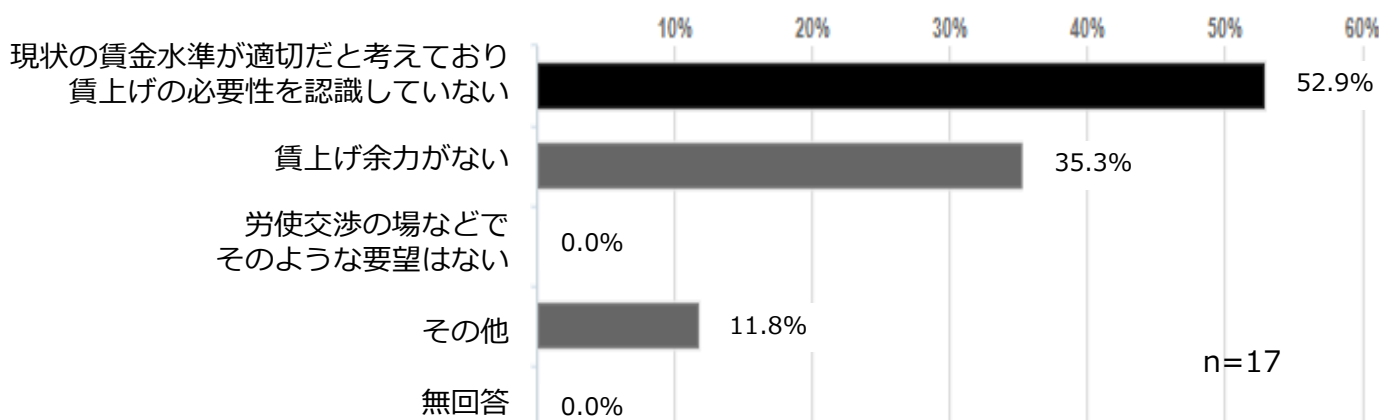
● 全体の約9割が賃金の「引き上げ」を検討している

Q8-1.（引き上げると回答）賃金改定の水準について教えてください。（単一回答）



● 「1~3%」「3~5%」「5~8%」の範囲での賃金引き上げが検討されている

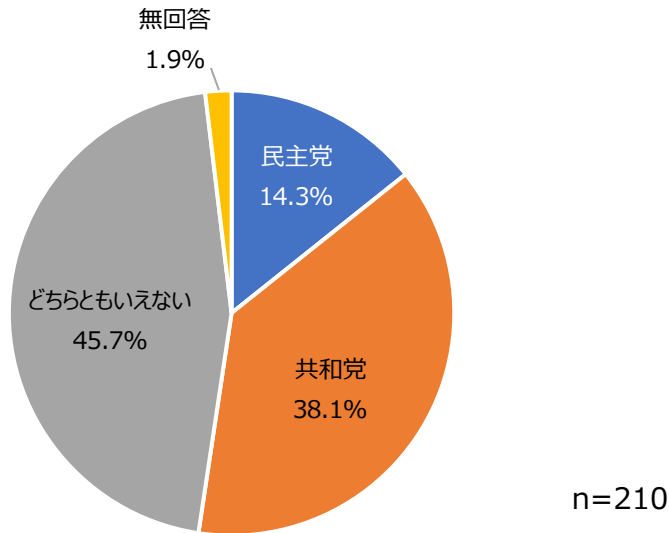
Q8-2.（実施しない、引き下げると回答）理由について教えてください。



● 「その他」には、年俸制など、ベアという考え方がない企業の声もあった

Q9. 民主党と共和党、どちらが政権を取るとお考えですか。

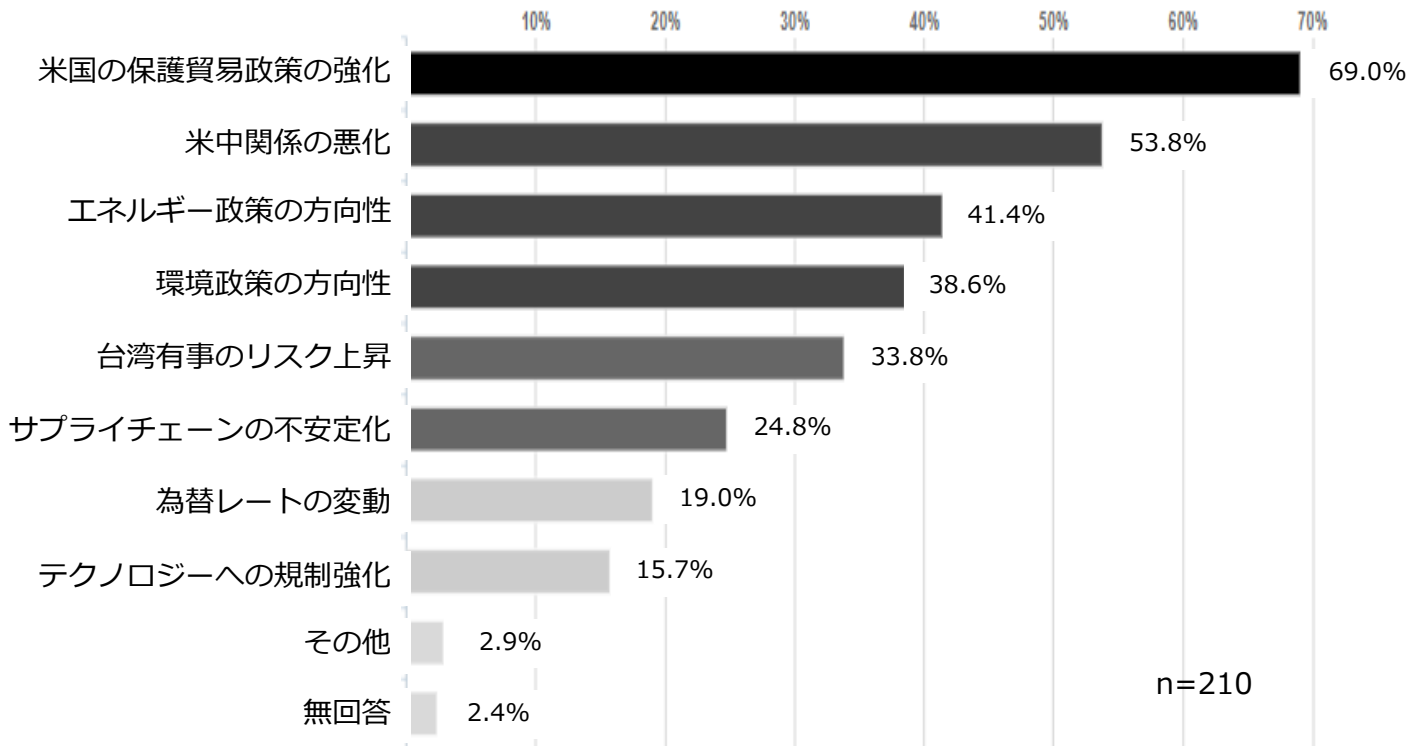
(単一回答)



- 「どちらともいえない (45.7%)」の回答が最も多く、動向を見守る声が多い結果となった。

Q9-1. 米国大統領選、懸念点としてはどのようなものが挙げられますか。

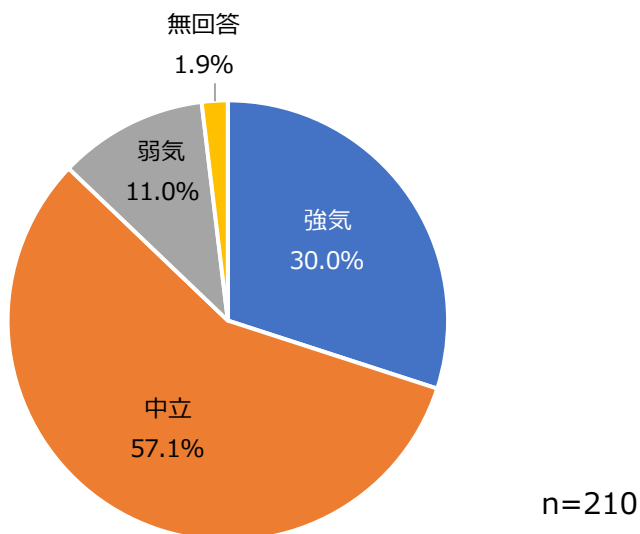
(複数回答)



- 「米国保護貿易政策の強化 (69.0%)」「米中関係の悪化 (53.8%)」など、輸出をはじめとする、米国市場へのアクセスに関する動向を注視する声が多い結果となった。

Q10. 総じて、2024年度の国内経済の見通しをどうみますか。

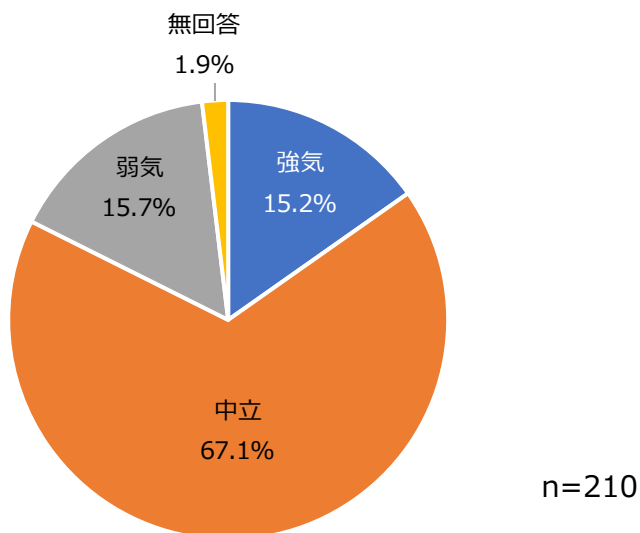
(単一回答)



- 約6割が「中立」と回答しているが、約3割が「強気」と回答し、「弱気」を上回っている。
- 国内経済の見通しを前向きに捉える声が多い結果となった。

Q11. 総じて、2024年度の世界経済の見通しをどうみますか。

(単一回答)



- 約7割が「中立」と回答し、「強気」と「弱気」が拮抗している。
- 世界経済の見通しは、不確実要素も多く、方向感が見定められていない状況にある。